

繁藤月報

〒 789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

こふきは続く

こふきのひろめシリーズ

vol.5

◆AIの進化と「人間の尊厳」そんげん

AIの急速な進化は様々な分野において、良くも悪くも大きな影響を及ぼしている。その一つが教育の世界だ。

今のところ、AIが得意なのは文章、画像、音声、動画などの生成である。これらの分野において、すでに人間よりも速く、正確に、そして疲れて休むことなく着実に任務を遂行してくれる。

AIが流行りだした2、3年前、こんなニュースが物議を醸した。宿題や課題レポート作成において、多くの学生がこっそりAIを使っているという問題だ。「宿題やつといて」とか「これ調べといて」などのお願いは、AIにとってお手の物である。もちろん教員も黙っていないが、AIの進化は止められるものではない。



学生が提出するレポートが人間自身の執筆によるものか？

それともAIによって生成されたものか？

そしてこれらを見極めるために、教員はAIに判別を頼む。

そんな笑い話のような、いや大真面目なイタチごっこが、実際に今でも繰り広げられているのだ。教育現場の苦労を軽視するつもりは全くないが、教育や育成に留まらず、人間の尊厳が本質的に問われる現実に直面していることは確かだろう。

◆もう一つの「こふき」の特性

さて、前置きが長くなったが、今月も「こふき」シリーズの続きだ。今回のキーワードは「実感」である。

前回述べた通り、明治14年の頃、教祖は側近の人々に「こふきを作れ」とご指示された。教祖自ら答えを提示するのではなく、あえて人間に作らせたという点が「こふき」の大きな特性だ。そこには取次人の養成という教育的意図があった。

冒頭の話ではないが、課題を出した場合、セットになるのが添削や評価である。高弟たちが作ったどの「こふき話(本)」においても教祖は、「それでよい」とはおっしゃらなかった。これが「こふ

き」のもう一つの大きな特性である。つまり「こふき」に未だ完璧なものはなく、言うなれば未完成なものともいえるだろう。

◆神の話を「味わう」

ここで「こふき」という単語が入っている「おふでさき」を二つ紹介したい。

このたすけいまばかりとハをもうなよ

これまつたいのこふきなるぞや (二号10)

【解釈】

このたすけは、現在ばかりだと思うてはならない。これは末代までの雛形手本となつて永遠に救済の実をあげるのである。

にち／＼に神のはなしをたんと

きいてたのしめこふきなるぞや (三号149)

【解釈】

日々にこの真実な親神の話を聴いて喜べ、この話こそいついつまでも変わる事のなく、永久に世界たすけの教えとして伝わるべきものである。

おふでさきは、教祖ご在世中の事柄に留まらず、現代を生きる我々に対するメッセージでもある。そして、たすけの理話である「こふき」

となり得るためには、「神の話」を繰り返し聞いて楽しむという「実感」がなくてはならないものだと考えられる。

楽しむという行為を別の言葉に置き換えるならば「味わう」となる。つまり、ただ「神の話」を聞くだけではなく、自分ごととして受け取り、実際に身に行い、自身の血肉として腹に治めることだ。

そうして「神の話」を味わい、悟り得た境地、見えてきた御守護こそが「末代のこふき」となっていくのではないだろうか。



◆AIには生み出せない「生きた言葉」

二代真柱様は、教祖が「こふきを作れ」とおっしゃったのは、「取次たるものの心得台本を作れ」という意味に転じているかの如く思われる、と述べられている。

心得とは、物事を行うにあたって「常に心がけておくべきこと」

である。そして、台本とは固まったセリフという意味ではなく、言葉として口に出てくるその土台、つまり「根本・基盤」を指すのではないだろうか。なぜならば、AIの話ではないが、固定された「言葉」をただ口にするだけでは、本当の教育や育成は成り立たないからだ。そう考えると、教祖が「これでよい」とおっしゃらなかった本意には、揺るがしのない完璧な「こふき」を完成させるという意図はそもそもなかったのではないかという結論に行き着く。

繰り返しになるが、あえて人間に「こふき」を作らせた核心がまさにここにある。借りてきた言葉では、本当の意味で相手の胸に届かない。神の話を味わうという営みがあつて初めて、神と人が協働してたすけをしていくことができる。AIには生み出せない、躍動感のある生きた言葉がそこにあるはずだ。

◆ 今を生きる我々に、教祖が期待されていること

最後に、さきほど「おふでさき」を二つ紹介したが、あらためてこれは今を生きる我々へのメッセージでもある。加えて、教祖は今もこ



存命で私たちをお導きくださっている。そして私たちは教祖の道具衆であり、言い換えれば弟子とも言える。

今から140年以上前に、教祖はお側の弟子に「こふきを作れ」とおっしゃった。これは当時の先人先生にだけに向けられたお言葉なのか。否、こふきが完成されていないということは、まさに私やあなたにもご存命の教祖は「こふきを作れ」と期待されているのではないだろうか。

もちろん我々が「こふきを作る」ということは、原典を心に治め、残されている「こふき話（本）」を味わい、理を悟り、さらなる磨きをかけていくということだ。

今回の巻頭言で言いたかった結論を一言でまとめると、この今も「こふきを作る」営みの途上にあるということだ。そして、そこには唯一、人間に自由に使えるものとして与えられた心、つまり実感が何よりの肝になつてくるのである。

立教一八九年七月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【立教百八十九年 六月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には“どのよふな事をするのも月日にわたすけたいのちよはかりで”
と、教祖を通して、この世治める真実の道をお啓き下され、世界たすけへとお
導き下さいます果てしなく温かい親心の程は、誠に勿体なく有難い限りで御
座います。私共は元の親、実の親にお連れ通り頂く幸せを胸に誠を尽くして日
々の御用を懸命に勤めさせて頂いておりますが、その中にも五月雨に紫陽花の
花が鮮やかに映える今日の吉日は、御教元の元一日の理を受けて、これの教会
に御許し頂いております、月々の御祭日に当たりますので、只今からおつとめ
奉仕者一同心を一つに合わせ、陽気に座りづとめ、てをどりをとめて、六月の
月次祭を執り行わせて頂きます。御前に寄り集つた一同、共に朗らかにおう
たを唱和し、日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお
縊りする状をも御覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い
申し上げます。

ことわけて申し上げます。昨日、おかげを持ちまして、繁藤につながる多くの
婦人会員が集い、婦人会繁藤支部総会を意事に開催させて頂きました。教
祖のひながたを求め、女性の徳分を活かして、持ち場立場の役割をみちのだい
として努め励まして頂く決意を新たに致しました。また、本日はおつとめ後
に、洲本部属・統北分教会長の山本一元先生をお招きし、布教推進講習会を
開催させて頂きます。先生の御講話を拝聴し、一層にいがけ、おたすけに対
する熱量を高め、教祖の道具衆としての使命感をもつて、ひろめ一条の精神で
歩ませて頂く契機にいたしたいと存じます。何卒、至らぬ私共の歩みでは御座
いますが、この上共にをやのお力を賜り、身上や事情に苦しみ、真実の道を希求
する人々にをやの御声を伝え、温かきたすけの手を差し伸べて、共に陽気ぐ
らしの歩みを進めることの出来ますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願
い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十九年六月月次祭 祭典役割》

祭主	指図方	扨者	扨者	賛者	賛者	男	女	地方	笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話							
大教会長	田村辰久	佐藤栄治	空閑一将	田村省悟	藤田誠	座りづとめ	大教会長 前大教会長 近藤徳彦 大教会長夫人 前会長夫人 黒石伸子	佐藤栄治 河村道興 為田基紀	宮田孝道	為田紀久男	藤田憲明	村上英士	田村辰久	坂本久徳	佐藤順子	空閑さとの	佐藤文代	山本一元							
八足出し					てをどり前半	てをどり後半	空閑一教	伊藤正福	田村省悟	河村美佐子	佐藤明子	武市まち子	田村久徳	川田節夫	竹下隆廣	空閑慶吾	佐藤節幸	藤田誠	田村聡佐	佐々木恵	村上由高	田村純代	田村睦美	為田賢子	宮田みなみ
田村聡佐	佐々木恵	田村省悟	空閑慶吾	高橋道則	藤田誠	土居道久	黒河明大	立花孝一	田村美由紀	高山範子	田村育与	空閑一将	前田豊	佐藤孝彦	宮田教一	高橋道則	秋月英希	竹内一祥	黒石忠宏	田村庫治	阪本喜代子	空閑真理代	宮田みなみ		

【神殿講話】

(7月) 坂本久徳

【しげとうtime おかえり講話】

(7月) 為田基紀

テーマ「祭儀式」

【教会長神殿当番】

(7月) 北大津・繁山

(8月) 関守・高昭

【詰所事務当番】

(7月) 大西義一

(8月) 黒河明大

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん(11月1日～15日)

別府分教会

○婦人会詰所ひのきしん(7月25日～26日)

高杉分教会 2名

【五季づとめ】

今月は五季づとめの月です。左記の通り上級の教会を通してお納め下さいますようお願い申し上げます。

一、五季づとめ 三、〇〇〇円

【婦人会】

○繁藤支部婦人会総会御礼

去る、6月20日繁藤大教会に於いて「繁藤支部総会」を開催いたしました。ご出席くださった皆さま、誠にありがとうございました。

また、皆さまのご協力をいただき模擬店を賑やかに開催することができました。ありがとうございました。

参加総数

婦人会員135名、その他82名、合計217名

○第31回女子青年大会

・日時 11月1日(日) 午前10時

・場所 本部中庭

▽おやさとマルシェ

大会前夜におやさとマルシェが開催されます。

・日時 10月31日(土)

夕づとめ後～午後8時

・場所 東・西泉水プール前広場

※ぜひ女子青年の方に、ご参加頂けますようお願いいたします。

【少年会】

○帰参報告書の御提出

今回の月報にこどもおちばがえりの「帰参報告書」を同封(教会分)していただきますので、7月20日までに詰所へご提出をお願いします。他の詰所を利用される教会も帰参報告をお願いします。

【学生会】

学生生徒修養会「高校の部」が、8月9日から13日まで開催されます。対象になります高校生にお声がけの程よろしく願います。お問い合わせ申し込みは、学生担当委員会(空閑)までご連絡ください。

【一れつ会より】

令和9年度大学扶育生志願要項・天理高校一部扶育生志願要項が発表されました。

天理教一れつ会のホームページ

(<https://ichiretsukai.tenrikyo.or.jp/>) から、要項

・願書をダウンロードして、所属教会(上級

教会)・大教会長様の印鑑を頂いて、レターパ

ックライトで郵送で申込みをして下さい。

提出先、受付期間は次の通りです。

《扶育願書提出先》(天理高校第二部を除く)

〒632-8679 天理市守目堂町213-4

おやさとやかた真南棟3階

天理教一れつ会扶育願書係

※レターパックライトでの郵送のみ受け付けます。

《扶育願書受付期間》(天理高校第二部を除く)

10月1日(木)～10月31日(土)

要項を確認頂いて各自で願書作製を御願

いたします。不明な点等があれば一れつ会担

当 田村久徳(垣生会長)までお問い合わせ

下さい。

※志願要項ならびに扶育願書の紙媒体での配

布、郵送はありません。各自でダウンロード

して下さい。

【詰所よりお願い】

詰所玄関横の下足室に、置き靴が増えて参りました。一度詰所の方で別に保管させて頂きます。ご入り用の靴がありましたら、事務所までお声がけ下さい。今年中保管させて頂き、誠に勝手ながら申し出がなければ処分させて頂きますので、よろしくお願いいたします。

【訃報】

富久地分教会四代会長秀島皓一夫人が
6月27日、お出直しになりました。
享年 91歳

【初席者（5月）】

角野 岸 捺 希
角野 岩本 純奈
未見 越智 瑠美

【修養科修了生（1018期）】

空 心 子
安 藤 恒 子空 心 二
安 藤 啓 二城 下 洋 美
藤 田 洋 美

【おまもり】

2 件

【をびや】

1 件



婦 人 会 繁 藤 支 部 総 会



北 大 津 分 教 会

6月の仕切り月

8日 南田川 分教会
14日 垣 生 分教会
23日 北大津 分教会

7月の仕切り月

18日 百 生 分教会
8日 豊 養 分教会
6日 細 島 分教会
5日 長 濱 町 分教会
5日 奈 井 江 分教会
3日 百 春 分教会